

会 議 録

◇詳細—企画調整グループ 電話03-4566-2511

附属機関又は 会議体の名称		平成29年度 未来戦略創出会議(第5回)
事務局(担当課)		政策経営部企画課
開催日時		平成29年6月22日(木) 14時00分～14時35分
開催場所		庁議室(庁舎5階)
議題		(1)都市づくりのグランドデザイン(素案)に対する区の意見回答について (2)平成28年度豊島区各会計仮決算について (3)(仮称)豊島区新ホール管理運営計画素案【骨子】に対するパブリックコメント 実施結果について (4)政策経営会議(第3回)結果報告
公開の 可否	会議	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由 豊島区行政情報公開条例第7条第1項第5号による
	会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委員	区長・副区長(2)・教育長・政策経営部長・総務部長・危機管理監・区民部長(代理: 区民活動推進課長)・文化商工部長・環境清掃部長・保健福祉部長・健康担当部 長・池袋保健所長・子ども家庭部長・都市整備部長・地域まちづくり担当部長・土木 担当部長(欠席)・会計管理室長・教育部長・区議会事務局長
	幹事	企画課長・財政課長・行政経営課長・区長室長・広報課長・総務課長・人事課長(欠 席)・選挙管理委員会事務局長・監査委員事務局長(欠席)
	説明者	都市計画課長、会計課長、新ホール整備担当課長
	事務局	企画課企画調整グループ係長・主査

審議経過

(1) 都市づくりのグランドデザイン(素案)に対する区の意見回答について

説明者 資料に基づき、都市づくりのグランドデザイン(素案)に対する区の意見回答について報告。

東京都都市計画審議会は、『2040年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について』を平成28年9月に答申した。この答申を受けた東京都は、目指すべき東京の都市の姿とその実現に向けた、都市づくりの基本的な方針と具体的な方策を示す行政計画として、『都市づくりのグランドデザイン』を本年夏頃を目途に策定する予定である。この『都市づくりのグランドデザイン』策定までの流れであるが、昨年度答申を受けた東京都が、本年5月に『都市づくりのグランドデザイン(素案)』を策定し、区に対して説明会を実施した。これを受けて、本区においても庁内関係課に対して説明会を実施し、素案に対する意見照会を行ったうえで合計37件の意見をまとめ、6月に東京都に対して提出したところである。今後その意見をもとに、東京都が必要に応じて内容を修正したうえで、本年8月に策定する予定である。この策定を踏まえ、本年秋以降に、『都市計画区域の整備、開発及び保全の方針』の改定が東京都によって行われる予定である。

『都市づくりのグランドデザイン』における都市づくりの基本的な方針に関する主な変更点について説明する。まず1点目が、広域的なレベルの都市構造として、これまでの「都心・副都心」の考え方から脱却し、高度な都市機能集積や個性を生かした『中核的な拠点』へ再編される点である。2点目が、地域的なレベルの都市構造として、人口減少や少子高齢化を踏まえ、身近な地域で誰もが活動しやすく快適に暮らせる『集約型の地域構造』へ再編される点である。3点目は、「個性」に着目した地域づくりとして、それぞれの地域が持つ個性に着目した拠点形成や地域づくりを推進し、拠点間をつなぐ『地域軸』を形成していくという点、最後に4点目として、『中枢広域拠点域』、『新都市生活創造域』、『多摩広域拠点域』、『自然環境共生域』の4つの地域区分に再編するという点である。なお、本区は『中枢広域拠点域』に含まれることとなる。

今回の『都市づくりのグランドデザイン』の策定にあたり、東京都は、区が地域的な視点から進める個性や魅力を生かしたまちづくりを東京都が後押しするとともに、各区の考え方や意見を受け止めて、各地域の記載を充実させるため、都市づくりの位置づけや方針等を、これまで東京都が決めた付的に行ってきたやり方を改めるとしている。

委員 補足説明をすると、今回の大きな見直しのポイントは、「都心・副都心」という考え方から脱却し、地域の「個性」を生かした『拠点』がそれぞれ魅力を出し合い、東京都全体の魅力を高めていこうという考え方に変更した点である。これは「国際アート・カルチャー都市」を目指す都市像として掲げ、まちの価値を高めようとしている本区にとり、とても良い変更点であると考えている。また、本区から東京都に対して提出した意見で特にご報告したいのが、「池袋」を中核的な拠点に位置付けるべき」という意見である。池袋は有数のターミナル駅であり、その池袋駅周辺は特定都市再生緊急整備地域とアジアヘッドクォーター特区の指定区域として、また、国際アート・カルチャー都市構想を掲げ際立つ個性を打ち出しつつあること等を踏まえ、意見を提出したものである。また、

国際ビジネス交流ゾーンの一翼を担う地域として池袋駅周辺の位置付けがあっても不自然ではないという意見も、あわせて提出したところである。その他にも「国際アート・カルチャー都市」を踏まえた池袋に関する記述の追加や、地域名称としての例示に『池袋駅周辺』を追加することなどについても、意見に加えている。

⇒報告のとおり了承する。

(2) 平成 28 年度豊島区各会計仮決算について

説明者 資料に基づき、平成 28 年度豊島区各会計仮決算について報告。

一般会計予算現額は 135,551 百万円、収入済額は 128,151 百万円であり、収入率は 94.5%である。支出済額は 125,549 百万円で執行率 92.6%、形式収支となる差引残額は 2,601 百万円であった。国民健康保険事業会計については、予算現額 38,190 百万円、差引残額 1,477 百万円、後期高齢者医療事業会計については、予算現額 6,166 百万円、差引残額 174 百万円、介護保険事業会計については、予算現額 20,555 百万円、差引残額 690 百万円であった。4 会計合計の予算現額は 200,463 百万円、収入済額は 191,054 百万円、収入率は 95.3%、支出済額は 186,109 百万円、執行率は 92.8%であった。なお、形式収支となる差引残額は 4,945 百万円であり、27 年度決算と比較し、526 百万円の減となった。

一般会計における対 27 年度比であるが、予算現額が 9,307 百万円の減、収入済額が 11,889 百万円の減、収入率が 2.2 ポイントの減、支出済額が 11,168 百万円の減、執行率が 1.8 ポイントの減、差引残額が 721 百万円の減となった。

一般会計実質収支に関する調書であるが、仮決算における平成 28 年度歳入歳出差引額から翌年度へ繰り越すべき財源として繰越明許費繰越額 138 百万円を差し引いた実質収支額が 2,463 百万円である。この実質収支額から前年度実質収支額である 2,949 百万円を差し引いた単年度収支額はマイナス 485 百万円である。なお、実質収支額のうち、地方自治法第 233 条の 2 の規定による基金繰入額は、実質収支額の全額である 2,463 百万円であり、翌年度への繰越額はない。

⇒報告のとおり了承する。

(3) (仮称)豊島区新ホール管理運営計画素案【骨子】に対するパブリックコメント実施結果について

説明者 資料に基づき、(仮称)豊島区新ホール管理運営計画素案【骨子】に対するパブリックコメント実施結果について報告。

平成 29 年 3 月 28 日から 4 月 27 日にかけてパブリックコメントを実施したところ、14 件のご意見をいただいた。なお、素案の修正に至ったご意見はなかった。

⇒報告のとおり了承する。

(4) 政策経営会議(第 3 回)結果報告

各委員 資料に基づき、政策経営会議(第 3 回)結果について報告。

⇒報告のとおり了承する。

<p>会議の結果</p>	<p>(1) 都市づくりのグランドデザイン(素案)に対する区の意見回答について (2) 平成 28 年度豊島区各会計仮決算について (3) (仮称)豊島区新ホール管理運営計画素案【骨子】に対するパブリックコメント実施結果について (4) 政策経営会議(第 3 回)結果報告 →(1)～(4)について了承。</p>
<p>提出された資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市づくりのグランドデザイン(素案)に対する区の意見回答について ・～「都市づくりのグランドデザイン」策定までの流れ～ ・平成 28 年度豊島区各会計仮決算調書 ・(仮称)豊島区新ホール管理運営計画素案【骨子】に対するパブリックコメント実施結果 ・平成 29 年度第 3 回政策経営会議結果報告書